

Title	アングロサクソン民族(六盟館発行, 民族叢書十卷)(間崎万里・藤原守胤・菊地謙一共著)
Sub Title	
Author	有賀, 春雄(Ariga, Haruo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1944
Jtitle	史学 Vol.22, No.4 (1944. 11) ,p.115(485)- 116(486)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19441100-0118

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

書評

アングロサクソン民族

(六盟館發行
民族叢書十卷)

(間崎万里・藤原守胤・菊地謙一共著)

戦ふ皇國にとつて不俱戴天の仇であるアングロサクソン民族は、そもそも如何なる民族性を帯び、如何なる歴史を有し、また如何なる帝國を建設したか。その全貌を明確に説明して現世界大戦への深き認識に資せんとするものが本書である。

アングロサクソン民族は英帝國とアメリカ合衆國といふ二大國家を構成する。されば本書の第一篇は英帝國に充てられ、これを間崎教授が擔當され、第二篇及び第三篇は、それぞれアメリカ合衆國及びアメリカ合衆國史として、前者を藤原氏が、後者を菊地氏が執筆して居られる。而して該民族の勢力圏の大部分を含む英帝國篇が全卷の過半を占めてゐるのは當然である。以下、間崎教授の英帝國から紹介しよう。

古代及び中世にあつては、イギリスは文字通りヨーロッパの、否世界の僻陬に位してゐた。そこはメキシコ灣流に洗はれて、緯度の割合に温暖であるとはいへ、濕氣が多くて快晴に恵まれず、夏季の氣温が低く農業には不適當であり、従つて人口少く國勢振はず、久しい間ヨーロッパの第二流國たるの地位に止つてゐた。

しかし、近世初期、新大陸や新航路が発見され、地理的世界の擴大を見るや、その位置は一轉して陸半球の中央に置き換へられ、島嶼國家たる特性を遺憾なく發揮して盛んに水半球に進出し、現世紀の初頭までに世界全陸地および世界全人口のそれぞれ四分の一を包括する大植民帝國に發展した。間崎教授の論述はまづ「イギリスの水半球侵入」からはじまる。

そこでは第一にイギリスの地理的位置を論じ、次にイギリスのそれと密接に關聯する歐米諸國の水半球進出の歴史を述べ、最後にイギリスの水半球進出即ち世界侵略の跡を辿り、如何にして大植民帝國が建設せられたかの過程を明らかにされてゐる。

かくして成立した英帝國は世界無比の規模を備へ、従つて無類の組織即ち獨特の性格を帯びるに至つた。されば教授は第二章において、イギリスの第三帝國、皇帝をもたざるこの國における帝國の意味、幾つかの民族國の集團たる英帝國、領内における民族主義の發達と英帝國會議との關係等を詳細に論究して、The British Commonwealth of Nations といふ國名を有し、各自治領が平等の資格において自由に協同する英帝國の性格を明確にせられた。實に本章は英帝國を理解する上の鍵鑰ともいふべき部分を成し、その直截明快なる論述は著者の英國史研究における造詣の程を窺ひ知るに足るものである。

以上の第二章を精讀することにより、英帝國の構成に通じ得た讀者は、更に第三章において英帝國を構成する各自治領の歴史、地理、政治、外交などの諸問題に關する詳細なる論述に接することが出来る。

まづ第一の英本國においては、これを著者は帝國の性格からして一つの自治領と見做し、自治領の地位に顛落せるものとして「下格自治領」なる名稱を與へ、その現状、住民（即ちアングロサクソン民族の構成）、その民族性等を明らかにし、第二のカナダ聯邦においては、これを「模範自治領」と呼び、その模範の意味、開拓の歴史、聯邦成立までの政治的發展よりして政治組織、經濟狀態、對外關係に亘つてこの聯邦の特殊性を究め、第三のオーストラリア聯邦と第四のニュー・ジラランドとは、これを共に「忠誠自治領」となし、前者においては、「英領濠洲」たる所以にはじまり、その探検開發、政治的發展、聯邦の勢力伸張、經濟、貿易などに説き及び、後者においては、英人の占有、經營の經緯を辿り、政治的發展、社會主義施設の發達に論及して、「歴史なき國」たるの特質を明示し、更に南阿聯邦とアイルとを以て「反抗自治領」となし、前者においては、歴史、聯邦成立、人種問題、政治などの諸問題を通じて、その「反抗自治領」なる本質を説き、後者においては、その民族、歴史、自治問題、土地問題、新憲法の制定などを論じて、イギリスに反抗しつつ獨立を達成するまでの經過を明らかに説明してをられる。全章の各項悉く深き御研鑽の結晶であり該博なる知識の集積である。

英帝國に關しては從來好著の刊行せられたものなしとせず、又各自治領を個々に取扱つた著述も極めて多いが、全自治領を包括せる英帝國を綜合的に研究し、英帝國および帝國内各自治領の性格を最も明快に説明せる本篇の如きは他に類を見ない。つとめて冗漫な論述を避け、説明を要する事柄に關しては一々詳細な註を

附し、讀者をして聊かも煩雜を感じしめない。筆者は全篇を一應通讀したのみであるが、幾多の新らしい知識を授けられ、また從來自ら解き得なかつた疑問にして、本書の知識によつてはじめて解き得たものが少くなかつた。廣く歴史・地理學徒及び一般讀書人に一讀をおすすぬめしたい。

筆者は、曾て學生時代、教授の第一次世界大戰後の新世界に關する御講義を拜聽したあの當時と同様の氣持で本書を讀み、その懐かしい思ひ出を以てこの粗雜な讀後感を綴つて紹介に代へる。

第二篇「アメリカ合衆國」と第三篇「アメリカ合衆國史」とは、第一篇英帝國を補つてアングロサクソン民族に關する完全な書を成すものである。藤原氏の擔當する第二篇においては、まづアメリカの處女大陸に起つた開拓線と關聯せしめてアメリカの國民性、政治形態を説き、次に合衆國の各地理區に就いて地理的乃至歴史地理的記述を試みてゐる。アメリカの研究者として既に立派な著述のある著者の筆に成るものだけに傾聽すべき論述が多い。更に菊地氏の擔當する第三篇は合衆國史の概説であるが、單なる事實の羅列に非ず立派な史論である。末尾のアメリカ史年表は苦心せられたものであらう、詳細であり、しかも十分信頼して利用することが出来る。筆者は既にその恩恵をうけた者として著者に心から敬意を表する。(有賀春雄)

對外交通史論

(武藤長藏著)
(東洋經濟新報社)

經濟學者としての武藤博士の業績に就て吾々史學者は知る所僅